

国
語注
意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 別紙の解答用紙は、マークシート解答用紙と記述解答用紙とに分かれています。指定された解答欄をまちがえないように注意してください。マークシート解答欄は余りがでることがあります。
3. マークシート解答用紙は直接コンピューターにかけますので、折りまげたり、よごしたりしないでください。また枠で囲まれた部分以外には記入しないでください。
4. マークシート解答用紙にマークするときは該当する○にはつきりとマークしてください。
マークのしかた (良い例) ●
(悪い例) ○ × ⊗ ⊙ ⊖
(万年筆、ボールペンなどは使用してはいけません)
5. マークシート解答用紙に誤ってマークした場合には、消しゴムで跡が残らないようにしていねいに消し、消しかすをきれいに払ってください。
6. 試験開始後、マークシート解答用紙には氏名、受験番号を記入し、さらにその番号をマークしてください。なお、受験番号を記入するときにはマークシート解答用紙の「受験番号記入上の注意」をよく読んで、まちがいのないようにしてください。
7. 記述解答用紙には、氏名、受験番号を記入してください。
7. 試験問題はこの冊子の一〜十二ページに記載されています。
8. 問題冊子の余白部分は、メモとして利用して構いません。
8. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 次の文章を読み、後の問に答えよ。

初め麦畑の中へ建てた私達の家であった。友人達がいろいろの木を庭に植えて下さった。自分でも次第に買い足して植えた。それが五六年の間に成長して見ちがえるような庭になった。雑然と植えたので林の中に住むような気がする。実際稀に訪われる人達は外から見た様子が変わっているため、しばしば行き過ぎて路に迷われる。

荻窪は東京駅から四里もある東京の西郊に位置し、大震災前までは東京人の注意に上らず、私などは名さえも知らなかった程のな農村であった。私達は大震災に遇って幸い焼け出されることを免れたが、市内に住むのが怖くなって、もともと好きな郊外に再び移ることを計画し、人に勧められて此の荻窪に七百坪の土地を借りた。地主の須田平八氏が恬淡な、そうして深切な老農で、坪四銭で貸して下さった。併し七百坪は余りに広いので、一年後に貳百坪を戸川秋骨先生にお譲りして、よいお隣が出来た。地代は去年の三月から五銭に上げられた。附近の欲の深い地主達は八銭乃至貳拾銭に貸しているのであるが、私達の地主は僅かに壹銭しか上げない。「上げなくてもよいのですが、外の地主への義理もあつて」と気の毒そうに云われる。物質的に仕合せな事のない私達も、住む土地だけは地主のなさけで仕合せをしている。

私達は先ず借りた土地の一部に二室の小さな洋風の家を建てて、采花荘と名づけ、大学生である長男と次男とに自炊をさせて住ませて置いた。長男は乏しい学資を儉約して、いろいろの苗木を植えたり、一部に花を作ったりしたが、手が廻らないので他の空地は草ぼうぼうの状であった。一年後に戸川先生が隣へ建築せられ、私達も歌会をする日本間と浴室とを建て増して、土曜から日曜へかけて市内の宅から書物を読みに来た。翌年の夏此処で歌会をしたが、茂るが儘にした雑草が高く軒に及んでいるのを喜んで良人が夏草の歌を沢山に詠んだ。来会者の一人の堀口大蔵さんが「醜草の」何とかと云う歌を詠まれたので、私が笑って

「他人の庭の草を醜草と詠むのはひどい」と云うと、大學さんは例の機智³で、早速「いいえ、先生のお宅の草では御座いませぬ。向うの空地の醜草を詠んだのですよ」と云われた。全く矮い私の庭の垣などは没してしまつて、白い花を附けた鉄道草などが蓬交りに高く余所の空地へつづいて居て、座敷に坐ると青空が纔かに軒の所で覗くだけであつた。私達は土曜日毎に泊つて、その雑草原に掩われながら虫の音や雨を聴き、月を眺め、また朝夕の露のしとどに白いのを愛した。

今の家は素人の私が勝手に図を引き、大工の渡邊重春さんに頼んで建て増した。普請中、良人は「古典全集」の編纂と校訂に追われて居て一度も来て見る暇が無かつた。すべて普請が終り、少しの家具までも入れた後に初めて来て見た良人は、

4 と云つて珍しがつた。良人は此方の家を遥青書屋と名づけた。二階から箱根より秩父までの遠山が晴れた日に望まれるからである。もう雑草原ではなかつた。

市内の宅を引払い、他の子供達をつれて此処へ住んでから六年の時がたつ。この六年の間に次男は歐洲へ赴任し、四男は静岡市に在学し、四女は学校の寄宿舎へ入り、三男は近く此の五月に奉天へ赴任した。子供達のために設計して造つた部屋が次々に空くのは嬉しくもあり、また寂しくも感ぜられる。

私はこの数夜に互り、燈下で久し振に細字である古典全集本の「日本書紀」を読み終つたので、少し眼を悪くした。眼が悪いと頭の具合もよくない。今日は午前だけ心の休息をしようと思つて、ヴェランダの椅子に凭つた。硝子越に午前の日が若葉を越えて射し込んでゐる。落葉樹を多く植えたので、林のように茂つた木立の若葉が日光の下に燦爛として眩しい程に軒を掩うてゐる。もとは 5 A の中に籠つて空を見たが、今は 5 B の底から纔かによく晴れたお納戸色の空の一片を仰ぐのである。

硝子戸を開けると、日蔭にゐる私のセルを透す今朝の空気が少しくすら冷たい。この感じが私に短い二三節の詩でも作りたい氣持を誘うが、私は頭の悪いのを思つて、その氣持を抑えた。そうして庭へ下りてみた。

中央の芝生に立つと日光が少し暖か過ぎる。四方の木蔭をあちこち歩いてみる。「いも」と武蔵の方言で云う背の高い雑木が白

い花を木蔭に散らしている。何と云う可憐な木であろう。多くの人はこう云う雑木の花に愛を分とうとしならしい。その花が涙をこぼしたように見える。雨傘の轆轤注四に用いる木だと聞いているだけで、学名が私には解らない。注五無落款の絵を観るような遺憾を覚える。

方形の池に睡蓮が一つ咲き初めた。亡くなった婿の家から貰った睡蓮である。その花から孫の白い顔が聯想される。幼稚園へ行くようになったと聞くが、病氣などに感染して来ねばよいがと思う。

池の傍にひと株の紫の菖蒲が咲いている。いつか自分が手ずから植えたものである。梅が今年は沢山に実を附けている。石榴が朱の脣を開き始めている。筥たけのこが知らぬ間に見上げる若竹になっている。かわいい花の雛罌粟がこぼれた種からむらむらと紅く咲いている。此花を見ると仏蘭西の田舎の旅が涙ぐましい程思い出される。あの国では野草として麦に交って咲くのである。

何と云う虫か、もう蔦や桜の広い若葉を巻いて、その中に卵を擁して己が身の死を待っている。母性に殉ずる賢く哀れな虫の振舞よ。虫は一意自然の命令に服して、この初夏の陽光と和風とを楽もうとも思わないらしい。

蜂が楓の若葉から出て、すうつと舞衣ぎぬの裾を垂らすようなよい姿で、薄紫の花を連ねた梅檀せんだんの高い梢こずえへ昇って行く。私の今日8の心は蜂をも憎まれなくなっている。

(与謝野晶子「我家の庭」)

注一 市内 東京府東京市内を指す。東京市は一八八九(明治二十二)年に設置され、府の中心部としてその後拡張されていた。当時荻窪はここには含まれていなかった。

注二 お納戸色 緑色を帯びたくすんだ青色。

注三 セル 細い糸を使って織られた毛織物の一種。

注四 轆轤^{うぐろ} 傘の骨を束ねている部分。

注五 落款 書画の完成時に作者が加える署名や印。

問一 空欄1に入るもつとも適切な語を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート a)。

- ① 偏狭 ② 辺鄙^{へいび} ③ 悲愴^{そう} ④ 広大 ⑤ 陰湿

問二 傍線部2「市内に住むのが怖くなって」と筆者が述べる理由としてもつとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート b)。

- ① 住宅が密集していた市内では関東大震災により大きな火災が起きたから。
② 人口の多い市内では関東大震災後に物価が高騰し生活を圧迫したから。
③ 開発が盛んな市内では関東大震災頃には自然が少なくなってきたから。
④ 鉄道が発達した市内では関東大震災後の復旧に時間がかかったから。
⑤ 住宅需要の高い市内では関東大震災頃には欲の深い地主が多かったから。

問三 傍線部3「機智」は堀口大學の返答のどこに認められるか。空欄3 A、3 Bに当てはまる言葉を、記述解答用紙I 3の指定に即して、それぞれ十字以内で記入せよ。

背の高い草が生い茂っていて 3 A のに、堀口が 3 B ところ。

問四 空欄 4 に入るもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート c)。

- ① 想像していた通りの我が家だ
- ② 他人の家に泊っているようだ
- ③ 予想外にどこか懐かしい
- ④ 見わたす限りの自然だ
- ⑤ 実にいていねいな仕事だ

問五 空欄 5 A、5 B に当てはまる語の組み合わせとしてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート d)。

- | | |
|-----------|---------|
| ① 5 A 家 | 5 B 林 |
| ② 5 A 落葉樹 | 5 B 常緑樹 |
| ③ 5 A 常緑樹 | 5 B 落葉樹 |
| ④ 5 A 若葉 | 5 B 雑草 |
| ⑤ 5 A 雑草 | 5 B 若葉 |

問六 傍線部6「無落款の絵を観るような遺憾を覚える」と筆者が述べる理由としてもっとも適切なものを次から選び、その数字

をマークせよ(解答欄はマークシート e)。

- ① 用途だけでは植物を特定することはできず、絵画も落款がなければ作者を特定することはできないから。
- ② 正式な学名を知らないことは、真贋^{がん}を見きわめるための落款がない絵画と同様に問題だから。
- ③ 可憐な木の名前がわからないことには、作者がわからない絵画を見るときと同様のもどかしさがあるから。
- ④ 美しい雑木の花に愛情を注ぐためには、まず正式な学名を知る必要があるから。
- ⑤ 名前を知られていない木は、落款を忘れられた絵画と同様に悲しげにみえるから。

問七 傍線部7「自然の命令」にあたるもっとも適切な表現を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート f)。

- ① 無知の知
- ② 弱肉強食
- ③ 慈愛の心
- ④ 種の保存
- ⑤ 共存共栄

問八 傍線部8「私の今日の心は蜂をも憎まれなくなっている」理由としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマーク

せよ(解答欄はマークシート g)。

- ① 初夏の庭で家族に思いをはせ、動植物もまたそれぞれのあり方をしているのを見て穏やかな気持ちになったから。
- ② 暗いところで「日本書紀」を読んだために目と頭の具合が悪くなり、いつものように危険な蜂を憎む気力もないから。
- ③ 自然の命令に服すことしかできない虫の生態に思いをはせ、蜂も同じだと感じて哀れみの感情がわいたから。
- ④ 庭の植物を観察するうちに孫が幼稚園に通うことを思い出して心配になり、蜂を憎むどころではなくなったから。
- ⑤ 初夏の庭であらためて観察すると蜂が美しい姿をしていることに気づき、これからは蜂も愛そうと思ったから。

Ⅱ A 次の1～3の()内のカタカナを漢字に直し、4～6の()内の漢字の読みをひらがなで記せ(解答欄は記述解答

用紙Ⅱ A 1～6)。

- 1 医療機器を(ハンニユウ)する。
- 2 詩人は、日常の何気ない瞬間にこそ美が(ヒソ)んできると語った。
- 3 与えた損害を(バイショウ)する。
- 4 美しい(旋律)に耳を傾ける。
- 5 勝ち負けに(拘泥)するのはやめよう。
- 6 科学の進歩は(漸進)的だ。

ⅡB 次の7～10の（ ）内のカタカナと同じ漢字が当てはまるものを①～⑤からひとつ選び、その数字をマークせよ（解答欄

はマークシート

h

 ～

k

 ）。

7 味に深みを加えるために香（シン）料を入れた。

- | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|---------|
| ① 「シン」刻 | ② 「シン」経質 | ③ 余「シン」 | ④ 「シン」憑性 | ⑤ 「シン」抱 |
|---------|----------|---------|----------|---------|

8 アウトドアには（カン）便な道具がよい。

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| ① 「カン」理体制 | ② 「カン」督責任 | ③ 「カン」喜の声 | ④ 「カン」動の秘話 | ⑤ 「カン」易書留 |
|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|

9 （タン）正な造形の彫刻。

- | | | | | |
|------------|-----------|------------|------------|------------|
| ① 「タン」念な筆致 | ② 感「タン」の声 | ③ 冷「タン」な態度 | ④ 「タン」緒を開く | ⑤ 「タン」鍊を積む |
|------------|-----------|------------|------------|------------|

10 （ケイ）骸化した従来の絵画技法を打破するために、新たに印象派が誕生した。

- | | | | | |
|---------|----------|-----------|---------|----------|
| ① 「ケイ」谷 | ② 「ケイ」観美 | ③ 「ケイ」勢逆転 | ④ 「ケイ」鐘 | ⑤ 「ケイ」約書 |
|---------|----------|-----------|---------|----------|

Ⅲ 次の文章を読み、後の問に答えよ。

都に程近き田舎に年わかき詩人住みけり。家は小高き丘の麓に在りて、その庭は家にふさはしからず広く清き流^{ながれ}丘の木立より走り出でてこれを貫き過ぐ。木々は野生^{のけえ}のままに育ち、春は梅桜乱れ咲き、夏は緑陰深く繁りて小川の水も暗く、秋は紅葉の錦みごとなり。秋やや老いて^{こがらし}、閑鳴りそむれば物淋しき限りなく、冬に入りては木の葉落ち尽して庭の面^{おも}のみ見すかざる、中にも松杉の類のみは緑に誇る。詩人は朝夕にこの庭を楽みて暮らしき。

ある年の冬の初^{はじめ}、この庭の主^{あるじ}人は一人の老僕と、朝な朝な^{ほうき}箒執りて落葉はき集め、これを流の岸の七個所に積み、積みたるままに二十日あまり経ちぬ。霜白く置きそむれば、小川の水の凍るも遠からじと見えたり。かくて日曜日の夕暮、詩人外より帰り来りて、^{しばし}暫時が間庭の中を彼方^{あなただなた}此方と歩み、清き声にて歌ふは楽しき恋の歌ならめ。この詩人の身うちには年わかき血温く環^{めぐ}りて、冬の夜寒^{よさむ}も物の数ならず、何事も楽しくかつ悲しく、悲しくかつ楽し、自から詩作り、自から歌ひ、自から泣きて樂めり。

この夕は空高く晴れて星の光もひときは鮮かなればにや、夜に入りてもやや^{しばら}暫くは流の^{ほとり}濤を逍遙してありしが、終^{つい}に老僕をよびて落葉つみたる一つへ火を移さしめて己は内に入りぬ。かくて人々深き眠に入り夜更けぬれど、この火のみは能く燃えつ、炎は小川の水にうつり、煙は真すぐに立ちのぼりて、杉の叢立^{むらだ}つあたりに青煙一抹、霧の如くに重し。

夜はいよいよ更け、大空と地と次第に相近^{ちかつ}けり。星一つ一つ梢^{こずえ}に下り、梢の露一つ一つ空に帰らんとす。万籟^{ばんがいせき}寂として声なく、ただ詩人が庭の煙のまよいよいよ高くのぼれり。

天に年わかき男^{おぼしめ}星女^{めぼし}ありて、相隔つる遠けれど恋路は千万里も一里とて、このふたり何時^{いつ}しか深き愛の夢に入り、夜々の楽

しき時を地に下りて享^うけ、あるひは高峰の岩角に、あるいは大海原の波の上に、あるいは細^ほ溪^{またにかわ}川の流の渾に、つきぬ睦^{むつこと}語^{こと}かたり明⁵し、東雲^{しのめ}の空に驚^{おどろ}きては天に帰りぬ。

女星は早くも詩人が庭より立上る煙を見つけ、今宵^{こよい}は殊の外寒く、天の河にも霜降りたれば、彼の煙たつ庭に下りて、たき火かきたてて語りてんといふに、男星ほほ多みつ、相抱きて煙たどりて音もなく庭に下りぬ。女星の額の玉は紅の光を射、男星のは水色の光を放^{あま}てり。天津^{あまつ}乙女^{おとめ}は恋の香に酔ひて力なく男星の肩に依^よれり。かくて二人は一山の落葉燃へ尽るまで、つきぬ心を語りて黎明^{あけがた}近くなりて西の空遠く帰りぬ。その次の夜もまた詩人は積みし落葉の一つを燃かしむれば、男星女星もまた空より下りて昨夜の如く語りき。かくて土曜の夜まで、夜々詩人の庭より煙たち、夜更れば水色⁶の光と紅の光と相並びてこの庭に下れど、詩人は少^{すこ}もこれを知ることなし。

注 万籟^{ばんらい} 自然の万物が風に吹かれて鳴る音。

(国木田独歩「星」より)

問一 傍線部1「庭の面^{おも}のみ見すかさるる」とはどういうことか。もつとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解

答欄はマークシート 1)。

- ① 強風により枯れた木々が激しく揺れ、奥の景色がちらちらと見える。
- ② 落ち葉が堆積し、ごくわずかな地面を除き庭がほぼ埋め尽くされた。
- ③ 落葉により視界を遮るものがなくなり、庭の表面が見渡せるようになる。
- ④ 冬でも松や杉の木々が繁茂して、庭の景観を埋め尽くすほどである。
- ⑤ 落葉により景色を彩るものがなくなり、殺風景になり果てた。

問二 傍線部2「彼方^{あなたこなた}此方」とあるが、この「彼方」の意味とは明らかに異なる文例を次からひとつ選び、その数字をマークせよ

(解答欄はマークシート m)。

- ① 遙かあなたに見えるのは、古びた教会の尖塔であった。
- ② 旅人は別れを告げぬまま、あなたに去っていった。
- ③ 風は山のあなたから吹き寄せてきた。
- ④ 親しいあなたの思い出は、いつまでも私の心に残っている。
- ⑤ ここから見えるのは手前の松林と、あなたに広がる湖面であった。

問三 傍線部3「ひときは鮮かなればにや」の現代語訳としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート n)。

- ① 小さくほのかに輝いたならば
- ② 一瞬だけ明るくなったからだろうか
- ③ 今日だけは確かに輝いたならば
- ④ 普段より明るくなると思うから
- ⑤ 一段と明るかったからだろうか

問四 傍線部4「星一つ一つ梢こずえに下り、梢の露一つ一つ空に帰らんとす」の説明としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート o)。

- ① 流星が落ち、露が蒸発して気化する様子を写実的に描いている。
- ② 詩人の深い夢の中で、星や露があたかも生物のように活動を始めたことを表している。
- ③ 夜明けの到来により、星が沈み、露が風に舞って消える様子を時間の流れとして描いている。
- ④ 星と露の対比により、自然の中に生と死の循環を見出そうとする詩人の精神状態を表している。
- ⑤ 深夜の静寂により自然の遠近が消滅し、星と露が溶け合うように見えることを表している。

問五 傍線部5「東雲しのめの空に驚きては」とあるが、何に気づいたのか。記述解答用紙Ⅲ5の指定に則して、五字以内で現代語訳せよ。

問六 傍線部6「水色の光と紅の光と相並びてこの庭に下れど」について、それぞれの光が何を示すのかを明らかにしながら、記述解答用紙Ⅲ6に二十字以内で現代語訳せよ(句読点も一字に数える)。